

平成 27 年度 第 8 回足立区総合教育会議 次第

平成 28 年 2 月 8 日（月）
午後 2 時 00 分～
足立区役所 8 階庁議室

1 教育大綱の策定について

（１）パブリックコメントの実施結果について

（２）足立区教育大綱と教育改革の提言について

（３）大綱の表紙題字の公募結果について

2 小中一貫教育学校の評価・検証について

3 来年度の総合教育会議について

4 その他

【資料】

- 1 「足立区教育大綱（案）」に関するパブリックコメントの実施結果及び意見に対する区の考え方について
- 2 足立区教育大綱と教育改革についての提言
- 3 教育大綱の表紙題字の公募結果について
- 4 足立区教育大綱原案
- 5 小中一貫教育学校の評価・検証について

第 8 回足立区総合教育会議 出席名簿

（ 構 成 員 ）

役 職	氏 名
区 長	近 藤 やよい
教 育 長	定 野 司
教育委員（教育長職務代理者）	小 川 正人
教育委員	花 岡 恵三
教育委員	小 川 清美
教育委員	杉 田 直子

（ 関 係 職 員 ）

役 職	氏 名
総合事業調整担当部長	秋 生 修一郎
産業経済部長	石 居 聡
福祉部長	橋 本 弘
衛生部長	大 高 秀明
教育次長	山 本 聖志
学校教育部長	宮 本 博之
子ども家庭部長	伊 藤 良久
生涯学習振興公社事務局長	永 井 章子
政策経営課長	中 村 明慶
総務課長	鳥 山 高章
秘書課長	高 橋 俊哉
地域文化課長	浅 見 信昭
教育政策課長	杉 岡 淳子
教育指導室長	浮 津 健史

平成27年度
第8回足立区総合教育会議
(2月8日)

座席表

事務局

秘書課長

教育指導
室長

教育政策
課長

地域文化
課長

総務課長

政策経営課長

生涯学習振興公社
事務局長

子ども家庭
部長

学校教育
部長

教育次長

教育委員
小川 清美

教育委員
小川 正人

衛生部長

福祉部長

産業経済
部長

総合事業調整
担当部長

教育委員
杉田 直子

教育委員
花岡 恵三

傍聴席

教育長

足立区長

出入口

「足立区教育大綱（案）」に関するパブリックコメントの実施結果
及び意見に対する区の考え方について

1 パブリックコメントの実施結果

（１）実施期間

平成 27 年 12 月 7 日（月）から平成 28 年 1 月 7 日（木）まで

（２）意見提出数など

意見提出者数	12 名
提出方法	
ア 郵送	2 名
イ ファクシミリ	3 名
ウ 区のホームページの意見受付フォーム	7 名
意見の件数	69 件

2 意見の概要及び区の考え方

No	項目	寄せられた意見の概要	区の考え方	件数
1	基本理念	基本理念に「～夢や希望を信じて生き抜く人づくり～」とある。教育とは、「人格の形成」であり、戦後の「憲法」、「教育基本法」のもとで受けた学校教育に、世界的に見て「子どもの権利条約」をさらに加えて行政や住民が大事にしていくものではないか。	足立区教育大綱の基本理念は、足立区として、子どもたちにどのように育ってほしいか、またそのためには、どのような教育が必要なのかを示しているものです。 「生き抜く」という言葉は、押し付けがましいというご意見ですが、「夢や希望を信じて生き抜く」という言葉には、子どもたちが、将来に向けて成長していく中で、迷いや困難に直面しても、そこから逃げず乗り越えて、自ら信じる夢や希望に向かっていけるたくましさを持って生きていってほしいという思いを表しております。「貧困の連鎖」からの脱却などが課題とされている、足立区のおかれている厳しい現状にも即して、このような強い表現が必要と考えております。	1 件
2		基本理念は、「夢や希望を信じて生きていく人づくり」程度の記述なら納得できる。「夢や希望を」信じて、さらに生き抜くというのは、しんどくて、押し付けがましくて教育の原点と少し違うところにあるのではないか。教育の原点とは、一言でいうなら人格の形成であるのではないか。	「生き抜く」という言葉は、押し付けがましいというご意見ですが、「夢や希望を信じて生き抜く」という言葉には、子どもたちが、将来に向けて成長していく中で、迷いや困難に直面しても、そこから逃げず乗り越えて、自ら信じる夢や希望に向かっていけるたくましさを持って生きていってほしいという思いを表しております。「貧困の連鎖」からの脱却などが課題とされている、足立区のおかれている厳しい現状にも即して、このような強い表現が必要と考えております。	1 件
3		「人づくり」は、何か物を作る製造機の印象がある。人はつくるといふより育つもので、育てあげるより、育てていく、教育はその支援をする、子どもの人格、個	また、ご意見にある教育基本法に定められた「人格の形成」や「子どもの権利条約」を表記すべきという	1 件

		性、尊厳を尊重し、生かし、育み、豊かにしていく営みと考えると「夢や希望を持って生きていく人を育むために」などの表現がいいのではないか。	ことについてですが、この大綱は、当然ながらそれらの条約、法令を踏まえて策定されるものであるため、重ねて表記しておりません。 なお、「人づくり」という表現については、人を育てるといった意味合いで、国をはじめとして様々な自治体においても使用されており、人を物のように扱っているものではないと思います。	
4	世代別理念	乳幼児期については、遊びが大事なので入れるべきではないか。また、学びの基礎を固めるだけに乳幼児期があるわけではないので「基本的生活習慣を身につけながら、学びの基礎も育みます」としてはどうか。	乳幼児期の理念にございます「様々な出会いやかかわりを通じ」という表現の中には、「遊び」をはじめとした体験・経験なども含まれており、「できた」という喜びも、それらのかかわりあいから得られるものと考えております。	1件
5		「できた」という喜びは、遊びや、体験、生活習慣などでこそ言えることで、豊かな幼児期を早教育でせばめない方針にしてほしい。	また、乳幼児期の考え方に示した「学びの基礎」については、様々なかかわりあいを通じて、豊かな感性や意欲を育み、自信を持たせて成功体験を増やしていくことや、基本的生活習慣を身につけていくことなど、広くとらえております。	1件
6		青少年期では、自立する力を培うとあり、自立は大事だが、同じくらい「助け合う」という視点が大事なのではないか。「磨きあいながら自身の道を切り拓く力」とは、競争して、他を蹴落として自分は這い上がる、あるいは、蹴落とされても別の道を「個性」だと納得させられて疑問を持たず行くようにする「力」なのか。ともに歩み、助け合いながら、自分を磨き、高め合っていくというような教育であってほしい。	青少年期の理念にございます「磨きあいながら自身の道を切り拓く力」については、仲間や友達とともに「磨きあいながら」成長し、将来に向かって進むことができる「力」を、身につけていくことを表しており、決して競争を煽っているものではありません。 また、「ともに歩み」という青少年期の理念の中には、助け合いながら成長するという意味も含まれております。	1件
7		成人期について、18歳になっても、人格形成は続き、その人の心やからだの成長を図り、学習する場の提供は必要。「学び続けながら社会に生かす」成人期とするのはどうか。	各世代の分け方については、ライフステージにおける主だった節目をとらえて、3期に分けて示しております。 また、青少年期から引き続き、成人	1件

8		15歳から就職する人もいますので、こうした線引きが正しいか少し疑問がある。「社会教育」という視点を取り入れ、「学びを保障するとともに、社会に貢献する道を示す」とうたってはどうか。	期においても学び続けることは必要と考えており、各理念は独立したものではなく、積み重なっていくことを図示しています。また、青少年期以降の「学び」には、学校教育の他に、社会教育も含めて考えております。	1件
9		乳幼児から青少年期まで、きちんと発達段階をふまえた教育をめざしてほしい。	世代別理念の実現に向け、子どもたちが育つ環境に左右されず、必要な教育や支援を途切れることなく受けられるよう、各施策、事業を推進してまいります。	1件
10		各年代に書かれたキーワードに共感した。また、各年代に応じた、目的とステージが用意されていると思う。 このような理念を、ぜひ、全ての教育現場に浸透させ、実践してもらいたい。		1件
11		世代別理念にある「生まれ育った環境に左右されることなく」は大賛成です。		1件
12	大綱の実現に向けた2本の柱	大綱の実現に向けた2つの柱について、小中学校の教育を実現させる条件整備、例えば少人数学級の実現や、学力テストや競争教育に頼らない豊かな学力、教師の多忙化解消など必要と思うがどうか。	大綱実現に向けた2本の柱について、「誰もが子どもを支える主役」では、社会全体で子どもを支え育てるという理念を明確にお示ししております。また、「貧困の連鎖を断ち切る教育」では、足立区のボトルネック的課題の元になっている「貧困の連鎖」を脱却する方策としての「教育」を明確に位置づけ、この課題解決に向けた区の強い姿勢をお示ししております。いずれも、大綱実現に向けた大きな柱となる考えを表したものとなります。 個別施策に関するご意見やご要望につきましては、今後、教育大綱の考え方に基づき検討する計画の中で、実施の可否も含め検討させていただきます。	1件
13		「貧困の連鎖を断ち切る教育」を「貧困の連鎖を断ち切る」で終わらせ、文章では、「欠かせない役割」を「重要な役割」とし、「そのための教育を充実します」とするとともに、根底にある貧困の原因を取り除く決意を入れるべき。		1件
14		1. 誰もが子どもを支える主役の中で、「社会全体で子どもを育て上げていく」の点についてはとても共感できた。 地域とのつながりが薄く、孤独な育児をせざるを得ない母親にとっては、自治体がこうした方針をしっかりと示しているというのはとても心強いのではないかと。 具体的な施策の中で実行してい		1件

		く際には、「希望の塊である子どもたちを育てる喜び」のようなものが、どの世代にも感じられるアプローチをしてほしい。「子どもはみんなの宝物」ということが共有できるようにしてほしい。		
15		2. 貧困の連鎖を断ち切る教育について、「貧困」という言葉を使われることに親として嫌悪感があるが、この中で「様々な機会を繰り返し提供します」という言葉にとっても安心できた。総合教育会議の議論の中でも「機会を平等に提供するというのは行政の傲慢では」というようなやり取りがあり、その子がどんな困難な状況にあっても、最後まで寄り添うことができなければ意味がないのではないか。そういう点で、このような行政の姿勢はとても良いと感じた。		1 件
16	学校教育・子ども施策	二期制の総括はなされてきたのか。	【№16～53】 個別施策に関するご意見やご要望につきましては、今後、教育大綱を基にして検討する計画の中で、実施の可否も含め検討させていただきます。	1 件
17		学校の二期制について見直してほしい。		1 件
18		夏休みの短縮を見直してほしい。		1 件
19		学校選択制の総括はなされてきたのか。		1 件
20		学区域の自由化（学校選択制）を見直してほしい。		1 件
21		中学校の学校選択制に制限を設け、他学区から入学できる人数を30人にして、大規模校を無くしてほしい。		1 件
22		30人学級にしてもらいたい。		2 件
23		少人数学級の実現を希望する。		1 件
24		教職員の数を増やしてほしい。		3 件
25		学力テストとそれに伴う学校評価、公表をやめてほしい。		3 件
26		学習指導要領で学ぶべき内容がはっきりしているので、テストや競争で勝ち負けを競うのではなく、その時に学ぶべき内容をみんなで話し合い、助け合ってそれぞ		1 件

	れのものにしていくことができる ような授業や学校にすべき。	
27	学力テストでなく、授業の小テ ストでできなかった子に特別に教 えていけばいい。	1 件
28	学力テストのための練習時間を 取らないで、学習を深めるための 時間にしてほしい。	1 件
29	これまでの区の学力テスト中心の施 策についての総括が必要ではないか。	1 件
30	貧困の連鎖を断ち切るために、就 学援助の基準を引き上げてほしい。	1 件
31	家庭がどんな状況にあっても心 配しないで通学できるよう、就学 援助の基準を引き上げてほしい。	1 件
32	学校給食、教材費なども無料化 の方向に検討してもらいたい。	1 件
33	高校・大学・専門学校などの「返 還の必要のない奨学金」を設置する 方向で検討してもらいたい。	1 件
34	学校統廃合計画を見直してほしい。	2 件
35	少人数学級や少人数指導が拡大 していく中では教室の確保が大切 で、学校をつぶさないでほしい。	1 件
36	学校のトイレを全て洋式に改修 してほしい。	1 件
37	古い校舎を早急に改修してほしい。	1 件
38	「どの子もわかる授業」が基本 だと思う。勉強についていけない 子を置き去りにせず、退職教員の 力を借りて、一人ひとりを大事に する教育をお願いしたい。	1 件
39	教師が授業の準備やクラスのこ とに集中できるように、余計な会 議や提出書類、多すぎる研修を少 なくしてほしい。	1 件
40	クラスや行事、児童・生徒会活 動、クラブ・部活動、遊びにいた るまで子どもが活躍できる場を設 定し、保護者や地域の人と一緒に 褒めてあげることのできる学校に してほしい。	1 件

41	学校の勉強についていけない子については、ゆっくり丁寧な指導をする支援をお願いしたい。	1 件
42	教員同士の横の助け合いや学び合いができるような学校のシステムにしてほしい。	1 件
43	教師（特に高学年）にゆとりを持たせてほしい。	1 件
44	教師の多忙をどう解消するか、その手立てが必要。	1 件
45	臨時に教職員を採用する場合、生活保護基準ぎりぎりだと感じるような低い給与にしないしてほしい。	1 件
46	教師が授業で自由に使える学校予算を増やしてほしい。	1 件
47	学校の文化行事、音楽会、演劇会など十分な予算をつけてほしい。	1 件
48	生活保護や就学援助による経済的な支えを必要とする、誰もが受けやすくする体制を整えることが大切だと思う。	1 件
49	5 歳までの早教育の強化や、小中学校での管理と競争といった上からの押し付けではなく、開かれた、参加と共同の学校づくり的観点で充実を図ってほしい。	1 件
50	質の良い保育、給食につなげられるよう、保育士さんも人間らしく働けるための労働条件を改善するなどして、心豊かな子どもが育つようにしてほしい。	1 件
51	保育園が不足というのであれば、公立の保育園の建設、保育士確保、給与面での措置をすべき。	1 件
52	園庭のない施設があり、保育施設の格差がひどいように思う。1 日の 1 / 3 を過ごす保育施設をもっともっと豊かな場所にしてあげて、乳幼児期からの自己肯定感を育ててほしい。	1 件
53	就学前教育についても、幼稚園、認可保育園、認証保育園など	1 件

		で格差が大きく、こうした格差の問題も踏まえてもらいたい。		
54	その他	進学、スポーツと子どもが夢や希望を大きくもつと、どちらも随分と費用がかかった。これからの子どもたちが夢や希望を持ち続けられるようにがんばってほしい。	「夢や希望を信じて生き抜く人」を教育理念として、教育施策を総合的に進めてまいります。	1 件
55		子どもの立場からの視点をきちんと貫いてほしい。	子どもの立場を最優先に考え、教育施策を進めてまいります。	1 件
56		主権者となる教育をめざしてほしい。税金を払える人づくりとよく聞くと、弱者を含む教育とは言いがたい。	“ 社会の担い手 ” とは、担税力だけではなく、様々な経験を積んで社会にはばたいていく子どもたちが、その経験や学びを次世代の子どもたちに伝えていくという、教育大綱の実現に向けた 2 本の柱で示している「学びの循環」を体現する者としてとらえ、お示ししております。こうした社会の担い手を増やしていくことで、区として、より豊かな地域社会の実現に寄与できると考えています。	1 件
57		社会の担い手となる子どもとは、将来税金を納める人ということか。働いて税金を納める人が増えれば、足立区の財政も豊かになり貧困対策にもなると思う。		1 件
58		全ての子どもが自分の希望する道を選び、十分に学べるよう区政で達成されるようお願いしたい。	いただきましたご意見を踏まえ、足立区教育大綱の理念を各施策や事業に反映してまいります。	1 件
59		総合教育会議で実際に教育に当たる者の意見を聞くということは欠かせない。	いただきましたご意見は、今後の総合教育会議の運営に生かしてまいります。	1 件
60		総合教育会議で、貧困問題の有識者の方々から意見を求めたと思う。その内容を公表してもらいたい。	足立区総合教育会議では、子どもの貧困問題に関する有識者をお招きすることはできませんでしたが、子どもの貧困対策を担当している所管も出席し、所管を通じて有識者の意見も反映させて、様々な意見交換を行ってまいりました。総合教育会議各回の議事内容は、今後も区ホームページに掲載してまいります。	1 件
61		貧困の連鎖を断ちきるのは、子どもだけでなく、親の生活・仕事を確保・安定させることも大切。最低賃金制は少なくとも 1000 円以上、区の職員も含め非正規職員や外部委託ではなく、区の正規	貴重なご意見として、庁内関係課と共有させていただきます。	1 件

		職員にしてほしい。中小零細企業への支援を検討してほしい。		
62		パブリックコメントの募集期間が、年末・年始の忙しい時期にあたり、1か月での募集は非常に困難。時期設定そのものが間違えている。	教育大綱につきましては、平成27年度当初から総合教育会議において慎重に検討を重ねてまいりました。この間、2回にわたり、複数の関係団体等から意見をいただく場も設けさせていただきました。その過程として、今回のパブリックコメントを募集させていただきましたが、その時期、期間については、配慮が足りず申し訳ございませんでした。	1件
63		教育の問題・貧困の問題は、今後の足立区の姿に大きく関わってくるので、大綱の決定は、ぜひ慎重に進めてもらいたい。		1件

足立区教育大綱と教育改革についての提言

日本共産党足立区議団から提出された「足立区教育大綱と教育改革についての提言」について、教育大綱に関するものについて、以下のとおり区の考え方を示しております。

提言の概要及び区の考え方

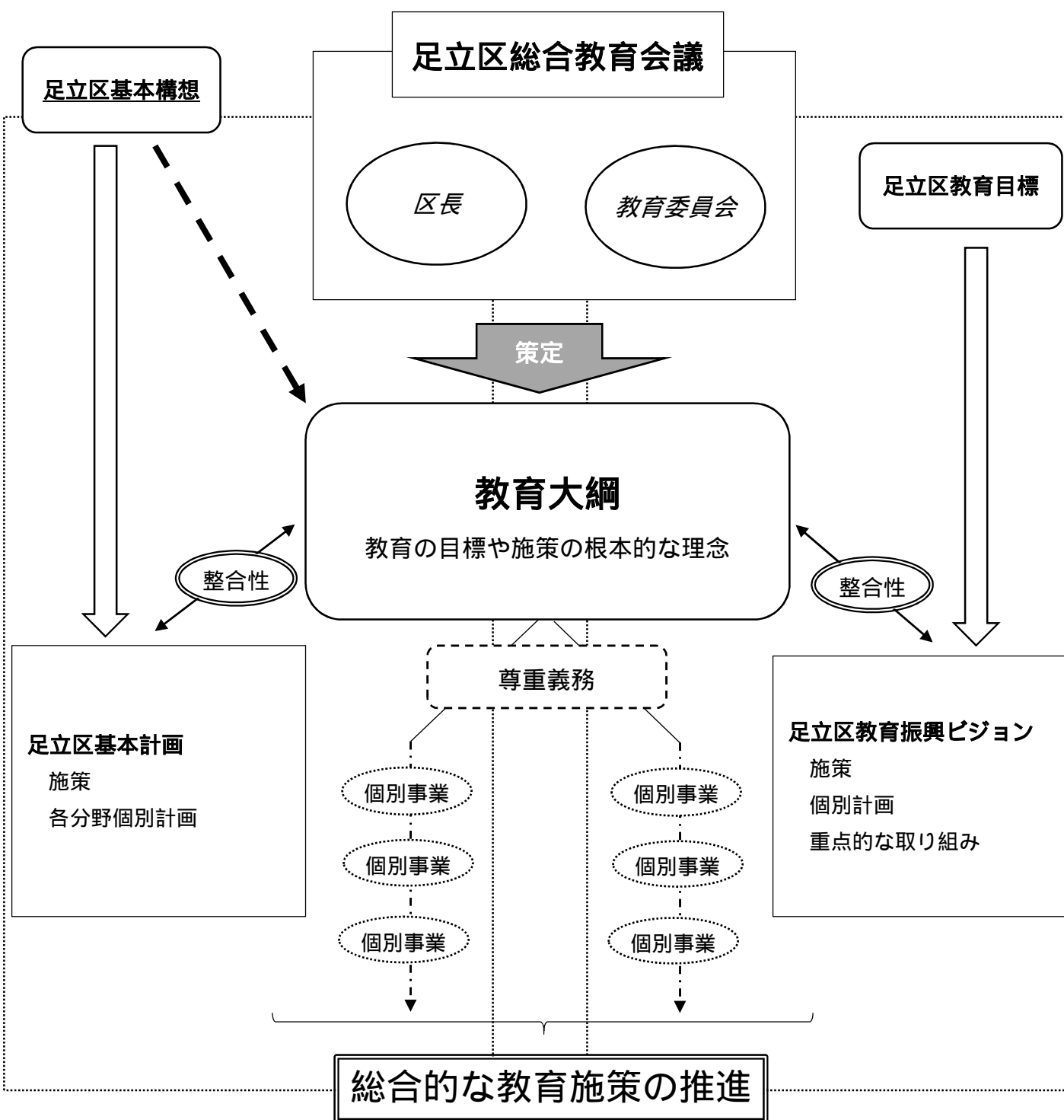
No	提言の題目	提言の概要	区の考え方
1	2、法改正で加わった3つの要素の運用について (3) 教育大綱と基本構想・基本計画について	第1回総合教育会議で示された教育大綱関係図については、基本構想の下に教育大綱があり、基本計画と横並びにあり、整合性が示されている。しかし、第6回の資料では基本計画の下に新教育振興計画が位置されており、教育委員会の中立性が弱まって、首長の権限が強まっている。教育委員会の権限が薄くなっているため、元の教育大綱の関係図に戻すべき。	第1回の資料については、教育大綱の位置づけを明確にするために、区長部局と教育委員会を対比させるよう表記したため、基本計画の位置づけが、区長部局側のみとなっており、正しく表記されておりませんでした。第6回については、新・教育振興計画は個別計画の一つであるため、基本計画の下に位置づけ正しく体系化したものです。したがって、この資料によって教育委員会の中立性を弱めたり、区長部局と教育委員会の権限を変更したりするものではございません。
2	3、足立区教育大綱(案)について (1) 教育大綱の位置づけについて	第6回総合教育会議資料中の大綱理念実現に向けた施策体系について、子どもの貧困計画が実効あるものに位置づけられることを求める。	子どもの貧困対策については、教育大綱でも理念実現に向けた2本の柱のひとつとしており、重要な位置づけにあるものと考えます。
3	3、足立区教育大綱(案)について (2) 教育大綱(案)のトップページについて	基本理念を見直すべき。大綱の理念は、大綱全体を要約・具体化すべきで、大綱実現に向けた2つの柱からも「貧困をなくし個人の尊厳が生かされる教育」とすべき。 「夢や希望」という文言を生かすなら「夢や希望を持って生きていく人を育むために」とすべき。 「人づくり」の発想も切り替えるべき。人はつくるというよりも育つもの。そして「育て上げる」というよりも「育てていく」もので、大事	パブリックコメントに対する区の考え方のNo1～3に考え方を示しております。

		なのは中心に子ども・人間本人がいて、その人格の形成・完成をめざすものではないか。	
4	3、足立区教育大綱（案）について （３）０歳から（人間形成の基礎を養う乳幼児期）に関して	「遊び」「遊ぶこと」が大切なので、文言に入れるべき。 「遊びや体験を通して人としての基礎を培う」時期であり、「学びの基礎を固める」の表現でくくるのはやめるべき。 「できた」という喜びは、遊びや、体験、生活習慣を含めた生活全体で言えることであって、豊かな幼児教育を早教育で狭めないようにすべき。	パブリックコメントに対する区の考え方の№４～５に考え方を示しております。
5	3、足立区教育大綱（案）について （４）６歳から（自立する力を培う青少年期）に関して	「ともに歩み、磨き合いながら、自身の道を・・・」ではなく、「ともに歩み、助け合いながら」等への変更を求める。	パブリックコメントに対する区の考え方の№６に考え方を示しております。
6	3、足立区教育大綱（案）について （５）１８歳から（学びの成果を還元する成人期）に関して	生涯学習・社会教育の重要性に鑑み、「学び続けながらその成果を社会に生かす成人期」「学びを保障するとともに社会に貢献する道を示す」とすべき。 「支える」というマークは、１８歳からを総称するマークとしては適切ではない。本人に即して内発的な意識を重視する立場から「いかす」などに変更すべき。「活かす」と「生かす」の両方の意味を含めてひらがなで表記するよう提案する。	パブリックコメントに対する区の考え方の№７～８に考え方を示しております。 教育大綱における成人期の考え方として、乳幼児期から成人期まで、積み重ね培った力を“いかして”、次世代の子どもたちの成長の支えとなってもらいたいという思いがあり、“いかす”という意味も包含して「支える」という表記にしております。
7	3、足立区教育大綱（案）について （６）「大綱の実現に向けた２本の柱」に関して【第２の柱について】	大綱案は、貧困の連鎖を断ち切ることが、すべて教育によって解決するかのような誤解を生みかねない。より重要なのは貧困そのものをなくすこと、根底にある貧困の原因を取り除くこと、子どもの貧困対策を教育施策のエンジンの一つに位置付けることだと考えます。 「２、貧困の連鎖を断ち切る教育」	パブリックコメントに対する区の考え方の№１２～１５に考え方を示しております。

		を「 2、貧困をなくし貧困の連鎖を断ち切る」などに変更して「教育」の文言を外すことを求めます。説明文中にも、そうした意味の文言を入れることを求めます。	
8	4、足立区総合教育会議で議論された論点について (6)自己肯定感に関して	自己肯定がすぎれば他者を思いやることなく、他者とのトラブルを起こす人もいます。 夢や希望を持って生きていくには「個人の尊厳を尊重し、自分自身が自分を肯定するとともに、そのことが他者への思いやりの心をはぐくむ」を含めた自己肯定感情を深められる人間形成が求められていると考えます。	「自己肯定感」については、提言にございますように、自分自身が自分を肯定することで、他者への思いやりの心をはぐくむこともできると考えております。教育大綱においても、乳幼児期における成長の特徴として「自己肯定感を培う時期」と表し、青少年期における成長の特徴として「思いやりの心を身につける時期」というように、その考えを表現しております。

【第1回総合教育会議提示資料】

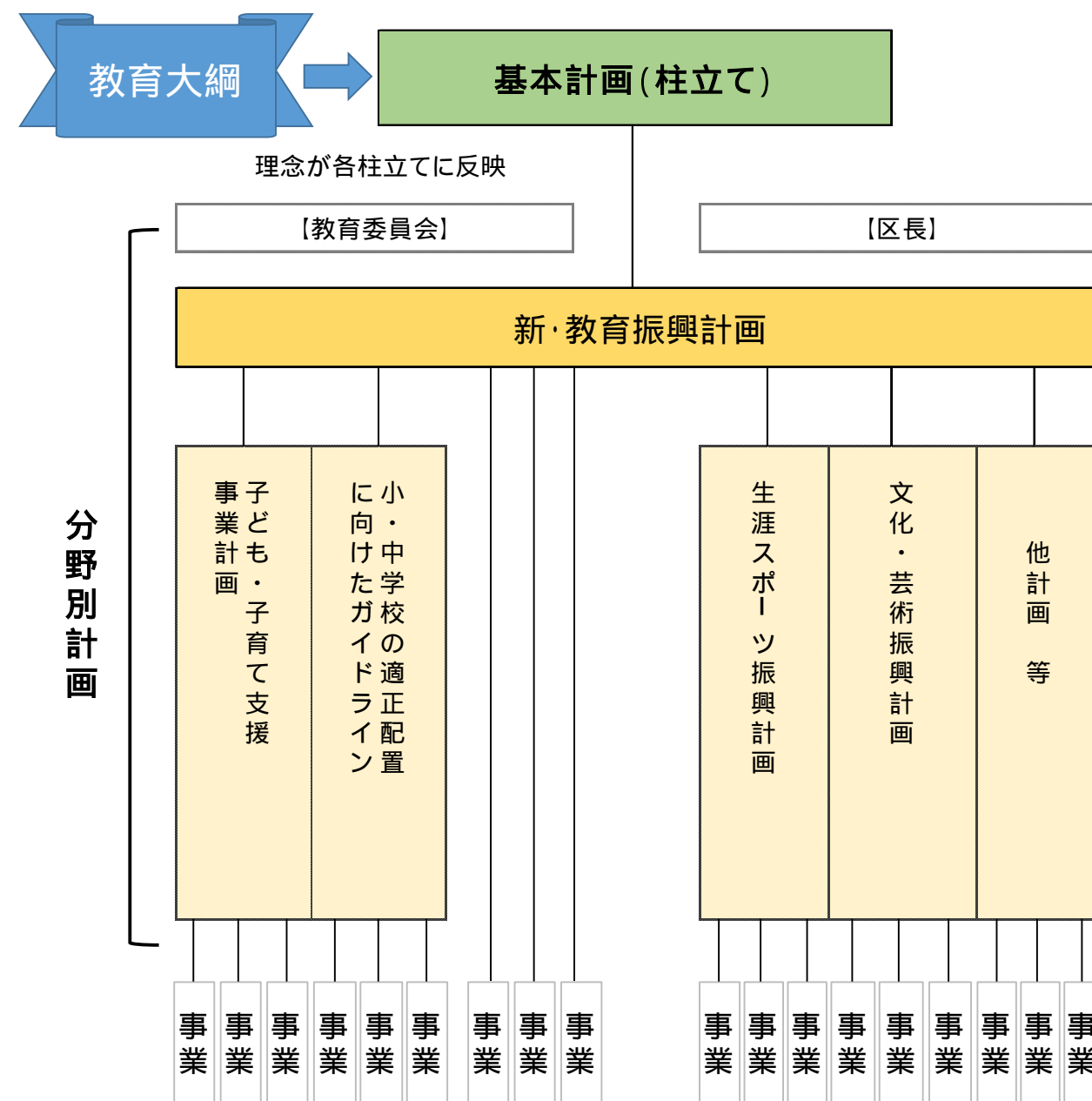
教育大綱関係図（案）



教育大綱と各構想、計画との関係

- ・基本構想の理念に基づく
- ・基本計画と教育振興ビジョンの計画とは整合性を保つ
- ・関係する各事業は、教育大綱の理念を尊重する義務が生じる

【第6回総合教育会議提示資料】



教育大綱の表紙題字の公募結果について

1 応募者数について

小学校低学年	2 6 3 名
小学校高学年	5 5 4 名
中学校	8 9 9 名
高校・特別支援学校	1 3 7 名
合 計	1 , 8 5 3 名

2 入選者数について

小学校低学年	4 名
小学校高学年	9 名
中学校	1 4 名
高校・特別支援学校	3 名
合 計	3 0 名

3 入賞者について

区長賞

都立城北特別支援学校 高等部 2 年 ^{すぎやま}杉山 ^{みく}実来さん

教育長賞

区立六月中学校 3 年 ^{わたなべ}渡邊 ^{ゆみ}佑美さん

優秀賞（3 名）

区立湊江小学校 2 年 ^{おくだ}奥田 ^{せいら}生来さん

区立中島根小学校 6 年 ^{さとう}佐藤 ^{けいご}圭悟さん

区立谷中中学校 1 年 ^{さくらい}桜井 ^{みれい}美怜さん

4 表彰等について

入賞者については、2 月 2 7 日（土）に行われる足立区教育委員会 児童・生徒褒賞式にあわせて表彰式を行う。

なお、入賞者を含む入選者全員について、表彰状及び記念品を贈呈する。